

甲状腺刺激ホルモンキット

# クレチンTSH ELISA II '栄研'

((マイクロプレートを用いたELISA法キット))

マス・スクリーニングに適しています。



((2日法、短時間法どちらにも対応))

同一キットで2つの使い方ができます。



((酵素標識抗体を溶液化))

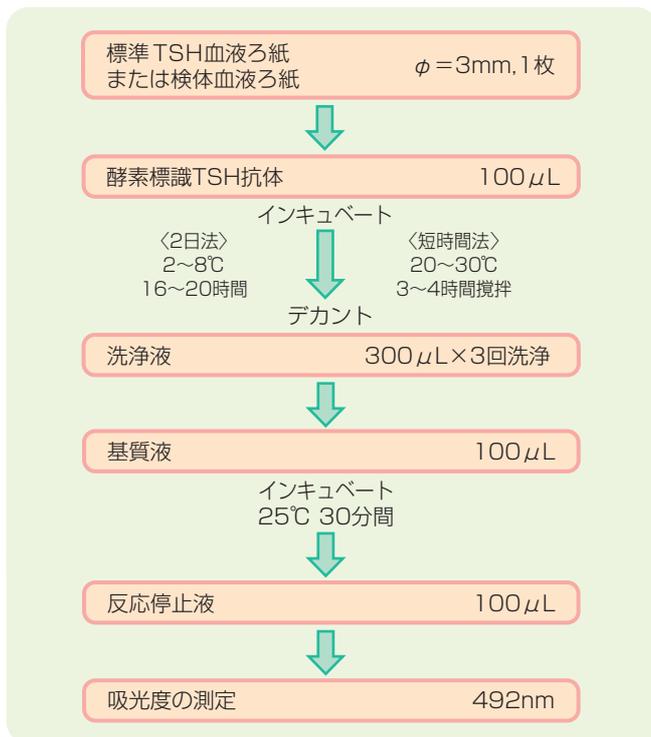
操作がいっそう簡単になりました。

## ● クレチン症とは？

クレチン症は先天性甲状腺機能低下症ともよばれ、甲状腺ホルモンの先天的な欠乏によって起こる病気です。甲状腺ホルモンは生後の脳・神経の発達に不可欠で、不足すると不可逆的な知能障害と低身長をきたします。日本では1979年から甲状腺刺激ホルモン(TSH)を用いたクレチン症の新生児マス・スクリーニングが始められました。患者はおよそ2400人に1人の割合で発見されており(1997~2001年度)<sup>1)</sup>、早期発見・早期治療によって知能予後の改善が確認されています<sup>2)</sup>。

## ● 測定方法 (測定原理)

本法は1ステップサンドイッチ法に基づく  
Enzyme linked immunosorbent assay(ELISA)です。



## ● 測定範囲

0.5(±0.1) ~ 80(±16) μIU/mL

## ● キットの構成

1キット 480回分

- TSH抗体固相化プレート…………… 96ウェル・5枚
- 酵素標識TSH抗体…………… 12mL・5ビン
- 基質剤…………… 10錠
- 溶解液…………… 12mL・5ビン
- 洗浄剤…………… 50mL・1ビン
- Ⓜ反応停止液…………… 60mL・1ビン
- 標準TSH血液ろ紙…………… 7系列・各2スポット

## ● 再現性

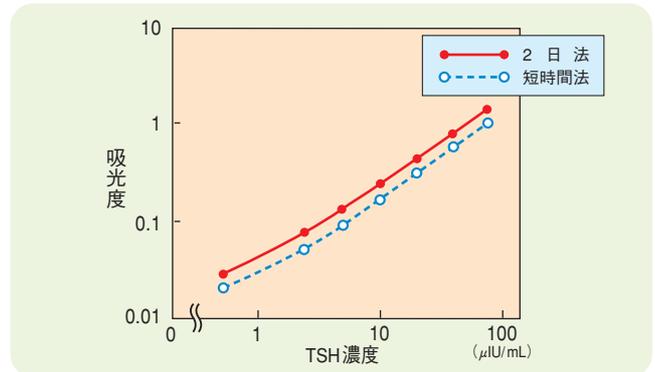
短時間法			測定内(8回測定)			測定間(5回測定)		
平均値	S.D.	C.V.(%)	平均値	S.D.	C.V.(%)	平均値	S.D.	C.V.(%)
4.2	0.2	4.0	4.3	0.1	2.8	4.3	0.1	2.8
13.7	0.6	4.1	14.2	0.5	3.2	14.2	0.5	3.2
41.6	1.4	3.3	40.6	2.0	4.8	40.6	2.0	4.8

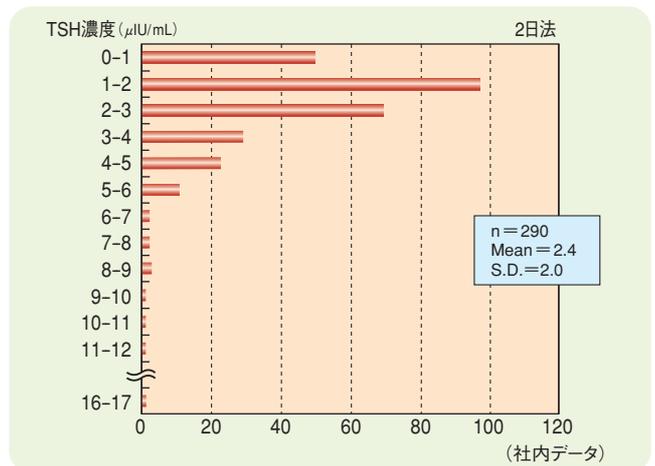
2日法			測定内(8回測定)			測定間(5回測定)		
平均値	S.D.	C.V.(%)	平均値	S.D.	C.V.(%)	平均値	S.D.	C.V.(%)
4.5	0.2	5.0	4.4	0.2	4.5	4.4	0.2	4.5
13.8	0.9	6.7	13.6	0.7	5.2	13.6	0.7	5.2
40.3	1.5	3.6	41.5	1.7	4.1	41.5	1.7	4.1

(社内データ)

## ● 標準曲線例



## ● 新生児検体測定値分布例



1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課: 先天性代謝異常検査及びB型肝炎母子感染防止事業実施状況。特殊ミルク情報 38:96-98,2002  
2) 猪股弘明: 先天性甲状腺機能低下症。産科と婦人科 69:202-205,2002

本試薬の使用上又は取扱い上の注意については、製品添付文書をご参照ください。